

業務の新聞

第5号 平成29年 7月26日

「“新”エルダー」？！ ドンドン聞きましょう

経営側から提案された「“新”エルダー」について、様々なウワサをもとに職場では、「話題」になっています。例えば、

「何で同じ業務を担うのに賃金が下がるのか？」

「職責も同じなのか？」

「体が持たない！」

「医適に引っかかったらどうなるの？」…。

約束したスケジュールも大きくずれ込んでいます。疑問が重複し、各職場での対応の遅れもあり、会社に対しての「不信」を招いています。

この間私たちは、現行のエルダー制度に関する問題点や現実との乖離を指摘し改善を求めてきました。

しかし会社経営側は、実施している現在の施策を「振り返る」「総括」することもなく“新たな制度”を導入し『枠』を大きくし「雇用を確保した」と言いたいのでしょうか、日々の業務にかかる『経費』を削減することだけが目指されているのではないか、心配なりません。

皆さんはどのように感じ・考えますか？

7/18 本部は経営側と「“新”エルダー」団体交渉を行いました。

本部は、組合員の声をもとに、そして日々職場で奮闘する仲間たちのために真摯に対応しました。文字だけで現実から乖離している会社施策に対して、残念ながら「社員の気持ちを置き去りにしている」「制度は活字だけで進むものではない」と主張せざるを得ないなかで、現場長をはじめ「社員とのコミュニケーションをさらに深めること」を確認しました。

次年度のエルダー制度に関しての各現場での“面談”は、「“新”エルダー導入」などもあり、そのスケジュールを大きく逸脱しています。

40年を超える長きにわたり現場第一線で奮闘してきた先輩たちが、「放置」されているようで腹立たしい限りです。

面談を実施する責任者である「現場管理者」の方々はどのように考えているのでしょうか？頼みの綱の“Q&A”も現場には届いていない様です。

ドンドンと聞きに行きませんか？ドンドンと発していきましょう。
私たちの生活のために！！

10月ダイ改について

10月にダイヤ改正が予定されているようです。支社からの提案はまだですが、他支社の乗務員は“訓練”を実施しています。

お客様に対する安全とサービスの提供が私たちには日々求められています。

業務にかかる『経費』を削減することは、企業にとって不可欠なことは私たちも理解します。しかし、安全とサービスの提供には“無料”では出来ません。『必要な要員の配置』なしには鉄道業は整理しないということもまた事実です。

窓口を閉鎖し、乗務員数を減らし、各検査周期を延伸し、“委託”“エリア化”なども限度があることをこの時期だからこそ会社経営側は考えるべきだと私たちは声を大にして訴えます。

我慢せず、現実を職場で話してみませんか？より良い会社を創るために！